

平成28年度

第31回 福島県養護教育センター研究発表会

(二次案内)

主題「共に学び共に生きる社会の形成に向けて」

～協働・連携による特別支援教育の充実について考える～

時下、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
さて、当センターでは、関係諸機関の皆様の御理解と御協力により、開所以来31回目となる研究発表会を開催することとなりました。
つきましては、多くの皆様の御参加を賜りますよう、御案内を申し上げます。

○ 趣 旨

特別支援教育を巡る最新の動向や学校等の状況を広く周知することで、インクルーシブ教育システムの推進と共生社会の形成に資する。

○ 日 時

平成28年12月2日（金） 10時から15時30分

○ 場 所

福島県ハイテクプラザ（郡山市待池台1丁目12番地）

○ 主 催

福島県養護教育センター

○ 日 程

9:30 10:00 10:15 11:00 11:20 11:55 12:15 13:15 15:15 15:30

受 付	開 会 式	研究発表1 教育研究	休 憩	研究発表2 調査研究	実 践 発 表	昼食・休憩 教材、支援機器等 展示・紹介	教育講演会	閉 会 式
--------	-------------	---------------	--------	---------------	------------------	----------------------------	-------	-------------

○ 参加申込み

別紙「参加申込書」により、FAXまたは電子メールでお申し込みください。
申込み締切は、平成28年11月24日（木）とします。

◇ 研究発表

◆ 研究の趣旨

福島県養護教育センター 主任指導主事 佐藤 登

福島県養護教育センターでは、インクルーシブ教育システムをさらに推進し、共に学び共に生きる社会の形成に向けて、平成28・29年度「協働・連携による特別支援教育の充実について考える」を研究テーマとし、教育研究と調査研究の二つの研究に取り組んできました。

まず、教育研究では、特別支援学校の専門性の向上・継承と校内活性化に向けて、必要な取組やその内容を整理し、課題を明確にした上で、学び合う学校組織の在り方について報告します。次に、調査研究では、子どもの学習支援の充実を目指して行った、病気等のある長期入院児童生徒の学習状況調査について報告します。

研究をとおして、障がいのある子どもたちが一人一人のニーズに応じた連続性のある学びが保障されるとともに、その学びを支える教員の専門性の向上・継承と校内組織の活性化が図られることを願っています。

◆ 研究発表1 10:00 - 10:45

平成28・29年度教育研究（一年次）

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」

～学び合う学校組織(OJL)への取組～

発表者：福島県養護教育センター 指導主事 江田 貴洋

福島県立石川養護学校（研究協力校）

福島県立いわき養護学校くぼた校（研究協力校）

これまで私たちは、複数の教員によるチームのつくり方や授業研究会の在り方を支援することにより実践を踏まえた校内研修(OJT)が推進されると考え、各学校の授業研究支援等に取り組んできました。そこで得られた成果と課題から、教員一人一人の専門性の向上や継承と学校組織の活性化のためには、授業以外の日常的な学校業務の全てにおいても協働や同僚性を発揮し、「互いに学び合う主体的な組織(OJL)」を目指していくことが今後重要になるのではないかと考えました。

そこで、今年度から2年間にわたり、各校の中心となる教員(OJLサポート教員)が、OJLの考え方を取り入れて校内の様々な取組をマネジメントしながら「学び合う学校組織」を形成していく過程について、研究を行うことにしました。

発表では、その取組を研究協力校の実践と共に報告します。

◆ 研究発表2 11:20 - 11:50

平成28・29年度調査研究（一年次）

「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」

～切れ目のない教育や学習の充実を目指して～

発表者：福島県養護教育センター 指導主事 大竹奈保子

今年度、福島県では、入院児童生徒等への学習支援体制整備事業を実施しています。この事業と対応して行いました、高等学校における入院生徒に対する学習支援状況等の調査結果のまとめ、モデル地区での小・中学校、特別支援学校における支援体制充実に向けた取組について、具体的な実践を紹介しながら報告します。

◇ 実践発表 11:55 - 12:15

「アシスティブテクノロジーの実践」

発表者：福島県立二本松工業高等学校 教諭 田坂 優太 氏

工業高校の生徒が、授業で支援機器の製作に取り組みました。
特別支援学校の児童生徒が使いやすい支援機器とは。特別支援学校の子どもたちが使ってみた感想はどうだったのか。製作を指導した立場から、報告をいただきます。

◇ 教材、支援機器の展示・紹介 12:15 - 13:15

協力：福島県立郡山北工業高等学校
福島県立大笹生養護学校

昨年度、工業高校の生徒が作った支援機器は、現在も特別支援学校の子どもたちに有効に使われています。学習で使用されている支援機器と、今年度から新たに授業で支援機器の製作に取り組み始めた工業高校からの試作品を展示・紹介します。また、合理的配慮にかかる情報や実践例、教材製作の実際についての掲示や、タブレット教材アプリの紹介も行います。

〈 教育講演会 〉 13:15 - 15:15

演題 「みんなちがってみんないい
～障がいのある子との暮らしの中で～」

講師 一般社団法人「発達障がいファミリーサポート Marble(マーブル)」
代表理事 国沢 真弓 氏



発達障がい児への理解を深め、すぐに役立つ「接し方のコツ」を紹介していただきます。また、自閉症のお子さんの子育て記も織り交ぜ、家族支援のポイントも伝えていただきます。

「アナウンサー」「自閉症児の親」「自閉症[※]外[※]支援士」という3つの立場を活かした講演は、わかりやすく、心に響くと評判です。発達障がいのことだけでなく、「伝えるチカラ」「人間関係を築くチカラ」を伸ばすコツも、お届けします。それはきっと、皆様の「暮らし」や「職場」で、必要なチカラになることでしょう。

◆講師プロフィール

- フリーアナウンサー、自閉症スペクトラム支援士
 - 一般社団法人「発達障がいファミリーサポートMarble」代表理事
 - ・聖心女子大学・歴史社会学科1985年卒業、富士通（株）3年半勤務後アナウンサーに。
 - ・NHKテレビ「きょうの料理」「婦人百科」等の司会を約10年担当する他、ラジオ・テレビの情報番組の進行、海外特派員、番組の企画構成等を担当。現在は、アナウンサー業と並行し、法人の代表として活動している。
- 「発達障がい関連の講演」は、100回近く行っており、2015年にはNHK-Eテレの番組でも取り上げられた。また、三鷹市などと連携し、保護者・支援者・教員の皆さんの相談にのっている。
- ★三鷹市障がい者地域自立支援協議会委員、三鷹市教育支援推進委員会委員、三鷹市社会福祉協議会委員
 - ★三鷹市発達障がい児親の会『モンブランの会』会長、「日本自閉症協会」「日本自閉症[※]外[※]学会」会員

＜参加申込み方法・その他＞

1 研究発表会に参加を希望する方は、次の方法で福島県養護教育センターに直接お申込みください。

(1) 電子メールでお申込みの場合

当センターホームページ [〈http://www.special-center.fks.ed.jp〉](http://www.special-center.fks.ed.jp) から、「平成28年度第31回福島県養護教育センター研究発表会参加申込書」をダウンロードして必要事項を記入後、メールに添付して送信してください。

おって、受理確認のメールを返信いたします。

送付先アドレス special-center@fcs.ed.jp (送り状不要)

(2) F A Xでお申込みの場合

別紙「参加申込書」をF A X番号 **024-952-6599** まで送信してください。

送り状は不要ですが、F A X送信後に、当センターに受理について電話で御確認ください。御面倒をおかけしますが、誤送信等のトラブル防止のため、御協力をお願いします。

2 自家用車の方は、福島県ハイテクプラザの駐車場が利用できます。

(東北自動車道・郡山インターチェンジより猪苗代方面に約5km、車で約10分)

公共交通機関を御利用の方は、JR東日本・郡山駅より、路線バス郡山駅西口、8番乗り場から「郡山郵便局経由西部工業団地」行きに乗車し、「ハイテクプラザ前」で降車(約40分)

3 当日の弁当を希望される方は、参加申込書の「昼食希望」欄に○を御記入ください。

代金は、税込500円(飲み物なし)となりますので、当日の受付でお支払いください。

なお、申込み後の取消しはできませんので、御注意ください。

4 時節柄、防寒対策について御留意ください。

【お問い合わせ先】

福島県養護教育センター 企画事業部

電話 024-952-6497

FAX 024-952-6599